

道徳教育実践報告：中学校の道徳教育

佐々木 隆

プロローグ

2021年7月10日（土）に私立武蔵野中学校で「道徳」のゲストスピーカーとして2時間の授業を行う機会があった。筆者は同校（武蔵野高等学校・武蔵野中学校）については1992年4月～2001年3月に英語の非常勤講師として勤務していた経験がある。現在は教職課程ではいわゆる「道徳」に特化した科目の担当はないが、「総合的な学習の時間の指導法」で道徳の内容を扱っている（佐々木 a 1-27）（佐々木 b 1-52）。また、「ポップカルチャー論」ではインターネットの抱える問題として不適切なコメントや写真・動画の投稿やデジタルタトゥーを取り上げてきた（佐々木 c 3189-3195）。

今回は中学生1～3年生を対象にしたものであるため、できるだけ新しい内容で身近な話題のものから道徳教育に相応しいものとしたが、その内容及び中学生や同席していた教員の反応などを含めた実践報告としてまとめることとした。

1 第1時間目「他者理解 世界はみな同じ、それとも世界はみなバラバラ？」（9:00～9:50）

音声及び動画を組み込んだパワーポイントを使用しながら、中学1年生から3年生（68名）を対象に合同で行った。

最初は簡単な講師の自己紹介を行ったあと、「道徳を説明するとどういふものですか？」と言う質問を中学生の何人かに聞いてみた。

- ・ 人に関係しているもの。
- ・ 人間関係に関係しているもの。

・人が暮らしていく社会に必要なもの。

道徳を説明するとどういふものですか？



『広辞苑』(2018)の定義

①人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の相対。法律のような外面的な原理。今日では、自然や文化財や技術品など、事物に対する人間の在るべき態度もこれに含まれる。

一般的な定義として『広辞苑』のものを提示した。道徳はこれまで人を対象にしていたが、「今日では、自然や文化財や技術品など、事物に対する人間の在るべき態度もこれに含まれる」という点に注目した。広くは環境問題、ゴミ問題、動物虐待、モノを大切に作る心なども含めて現在では道徳の範囲で取り扱われるものであることを紹介した。

よく言われること

- ・道徳には罰則はないが、規則には罰則が伴う。
- ・欧米は処罰型社会、日本は許し型社会と言われてきました。西洋は罪を犯したからそれに対して罰がある。罰せられないように罪を犯さないようにするという考え方。
- ・日本は相手に迷惑をかけないようにすることが美德であり、相手に気を遣うことが小さい時から求められ、それができなかった場合には謝り、許してもらおうという構造になっている。一定の範囲を超えると法律に基づき処罰される。

歴史的に社会構造が違う

●欧米は処罰型社会

欧米は古来より狩猟や遊牧など、移動しながらの生活を送ってきた。このため一定の安定した生活を送るためには、ある一定のルールを設け、それが守られなければ、途放される。もしそのルールに従えない場合にはその地域から自ら出ていくことになる。これが宗教的なものと結びつく。例としてイギリスから新世界をもとめて船で出帆したビルクリムファーゼス（清教徒の連立船祖）がある。（北）アメリカ大陸への移住である。

歴史的に社会構造が違う

●日本は許し型社会

日本は狩猟生活から定住型の農耕生活が中心の社会となる。農耕はひとりではできないため、常に協働作業を必要とする。しかも定住している。ルールを守らない人に一定の罰を与えながらも、許し、また協働作業に参加してもらおうになる。

チェスと将棋の違いに似ていますが、どういうことかわかりますか？

まずよく言われることだが、道徳と規則の違いについて簡単に触れた。道徳には罰則はないが、規則には罰則が伴うこと、欧米は処罰型社会、日本は許し型社会と言われい

ることを説明した。西洋は罪を犯したからそれに対して罰がある。罰せられないように罪を犯さないようにするという考え方であるが、日本は相手に迷惑をかけないようにすることが美德であり、相手に気を遣うことが小さい時から求められ、それができなかった場合には謝り、許し